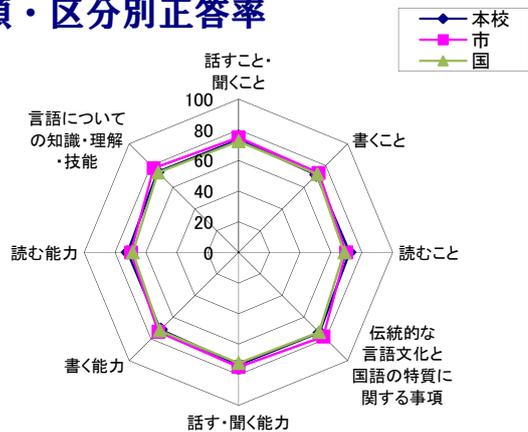


# 宇都宮市立御幸が原小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

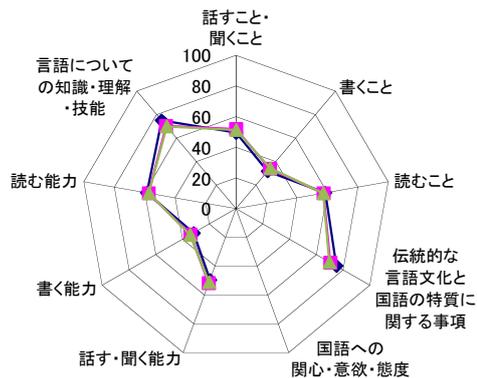
### 【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	73.4	74.9	72.4
	書くこと	71.4	73.4	72.2
	読むこと	71.9	69.7	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.2	77.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	73.4	74.9	72.4
	書く能力	71.4	73.4	72.2
	読む能力	71.9	69.7	68.5
	言語についての知識・理解・技能	74.2	77.8	73.7



### 【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	49.5	51.9	51.2
	書くこと	31.8	34.0	34.4
	読むこと	58.7	57.5	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.0	70.5	69.8
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	49.5	51.9	51.2
	書く能力	31.8	34.0	34.4
	読む能力	58.7	57.5	57.3
	言語についての知識・理解・技能	75.0	70.5	69.8



## ★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○

## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●おおむね定着していると言えるが、「友達の意見に対して反対の立場から質問や意見を書く」内容での定着率の低さが目立った。	・会話科やその他の授業で、なるべく多くの言語活動の時間を確保するようにしている。そのため、話す内容を整理し、簡潔に話すことができるようになった児童が増えてきている。しかし、グループ内で自由に話し合う時間等の様子を見ていると、話すことには熱心だが、聞くことが苦手な児童も多い。話すことと同じように、聞き方のレベルアップも図っていきたい。
書くこと	●5問中4問は平均以上の正答率であったが、「～たり、～たり」の表現を使って書く内容の正答率が低かった。無答の割合も10%と高かった。	・普段あまり使っていない表現だったことも考えられるが、今後、作文指導や音読や朗読の時間を活用し、様々な表現方法を紹介していきたい。
読むこと	○読む内容に関しては、正答率が各平均を越え、おおむね満足できる結果であった。	・教科書や読み物資料を読むことが好きな児童が多いので、そのことを賞賛し、読みながら内容を適切に理解できるようにその機会を増やしたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率をみると、漢字を書くことに比べて、漢字を読む内容でのつまづきが見られた。 ○詩の表現の特徴については、表現の工夫をよく捉えている児童の割合が高かった。	・現在使用している補助教材には、新出漢字とそれを使った熟語や言い回しが多く練習できるようになっているので、それを活用し、ノートで繰り返し練習させていく。